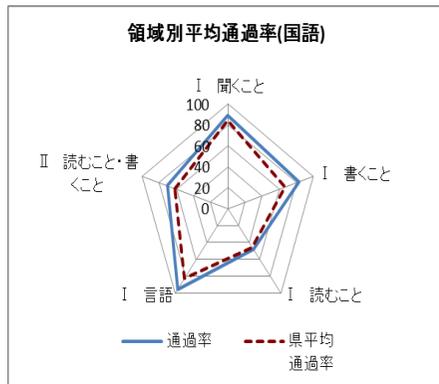


# 2014年度(平成26年度)授業改善シート〔国語〕

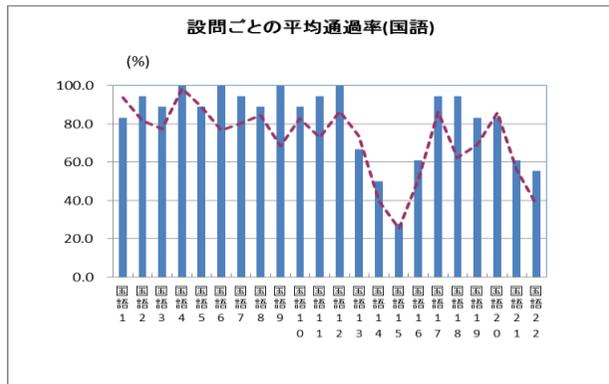
校番(73) 福山市立 山南 小学校

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 81.3%, 県 71.8%)

領域別平均通過率



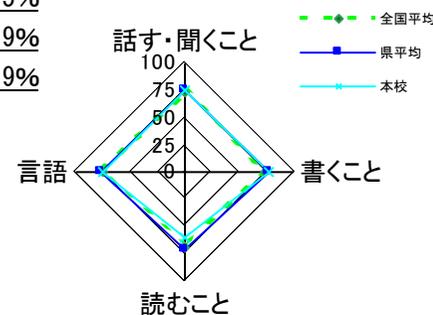
設問ごとの平均通過率



## 全国学力・学習状況調査 本年度正答率

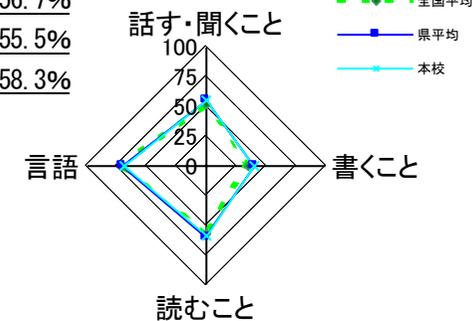
### A問題

本校 72.5%  
全国 72.9%  
県 75.9%



### B問題

本校 56.7%  
全国 55.5%  
県 58.3%



### 調査結果のうち顕著な課題

#### ◎「基礎・基本」◇全国学力

◎中心になる語や文、段落相互の関係を把握することに課題がある。  
(中心となる語や文の把握 通過率50%)  
(段落相互の関係を把握 通過率27.8%)

◇故事成語(五十歩百歩, 百聞は一見にしかず)の意味正しく理解し, 同じ意味で使われている例文を選択できていない。  
(通過率 五十歩百歩 50%)  
(百聞は一見にしかず 45.8%)

### 指導上の課題

○説明文を読み取る学習の際に, 接続語やキーワードの見つけ方について, 学年の系統性を意識した指導ができていなかった。

◇故事成語の意味を指導しているが, それを活用した例文づくり等の活動が十分できていない。

### 児童の課題・指導上の課題改善のための日常的な取組み

#### ～授業において～

○説明文の学習では, キーワードの見つけ方や, 接続語に着目して考えるよう繰り返し指導する。その際に, 各学年で指導する内容の系統性を明確にし, 常に振り返りながら学習するなどして確実な定着を図る。

○漢字やことばの学習の際には, 例文づくりを学習活動に多く取り入れるとともに, 新聞等で使用されている例を紹介, 掲示するなど, 環境づくりに取り組む。

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
実施スケジュール		PLAN	DO		CHECK		ACTION			
		説明文教材の指導系統づくり 漢字, 言葉の学習指導計画づくり (全学年)	指導計画に基づいた授業改善 (全学年)		福山市調査問題による検証 (4年～6年)		指導計画の見直しならびにシラバスの作成 (全学年)			福山市調査問題の実施 (4年～6年)

検証

○時期: 1月下旬

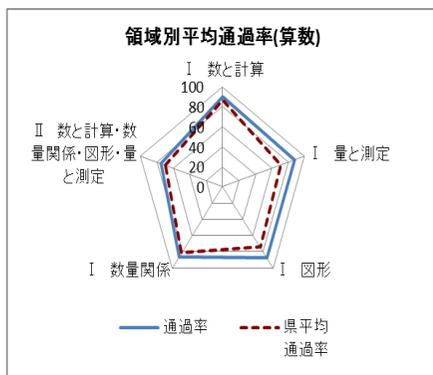
○方法: 福山市調査問題(4年～6年)

○目標: 課題のある領域の通過率70%以上

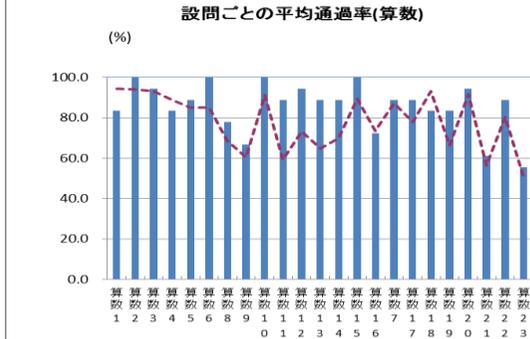
○結果:

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 85.7%, 県 78.0%)

領域別平均通過率



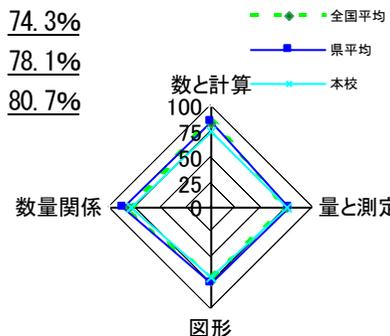
設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

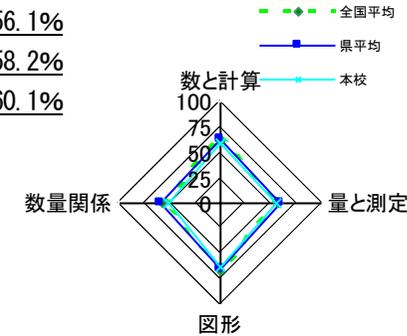
A問題

本校 74.3%  
全国 78.1%  
県 80.7%



B問題

本校 56.1%  
全国 58.2%  
県 60.1%



調査結果のうち顕著な課題

◎「基礎・基本」◇全国学力

◎示された長方形の板にカードを敷き詰めることができないと判断するための方法を考え答える問題で、筋道立てて説明することに課題がある。(通過率 55.6%)

◇妹の身長をもとに、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを解答する問題で、示された情報を整理し、筋道を立てて考え、記述することに課題がある。(通過率 16.7%)

指導上の課題

○文章題を解く際に、図や線分図に表す活動を十分に行っていない。また、自分の考えを整理し、全体で説明する場面の設定が十分ではなかった。

児童の課題・指導上の課題改善のための日常的な取組み

～授業において～

○文章題を解く際に、問題から読み取れる情報を整理させて考えさせるとともに、整理した情報をもとに図に表す活動を繰り返し指導する。

○絵や図、ことばの式などを自力解決の中でしっかり工夫させ、根拠をもとにした説明の指導をくり返し行う。

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
実施スケジュール	PLAN	DO			CHECK		ACTION			
	指導計画の見直し及び修正(全学年)	指導計画に基づいた授業改善(全学年)			福山市調査問題による検証(4年～6年)		指導計画の見直しならびにシラバスの作成(全学年)			福山市調査問題の実施(4年～6年)

検証

○時期：1月下旬

○方法：福山市調査問題(4年～6年)

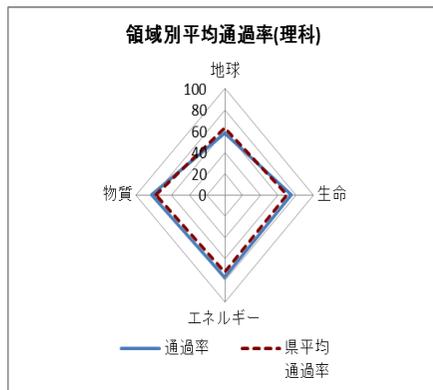
○目標：課題のある領域の通過率60%以上 ○結果：

# 2014年度(平成26年度)授業改善シート〔理科〕

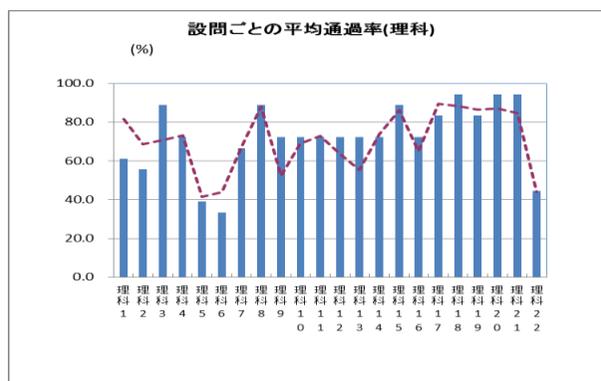
校番(73) 福山市立 山南 小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 72.5%, 県 70.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



調査結果のうち顕著な課題 ◎「基礎・基本」	指導上の課題	児童の課題・指導上の課題改善のための日常的な取組み ～授業において～
<p>◎方位磁針の正しい使い方を答える問題に課題がある。(通過率38.9%)</p> <p>◎正午の太陽の位置から、できるかげの位置を正しく答える問題に誤答が多い。(通過率33.3%)</p>	<p>○方位磁針を活用した観察等の学習活動が十分に確保できていなかった。また、日常的に方位等を意識させるような学習活動や取り組みが十分でなかった。</p> <p>○授業の際に、既習事項を振り返らせる活動が十分でなかった。</p>	<p>○太陽や月の学習では、十分な観察や体験を取り入れ、方位と結びつけながら指導を行う。</p> <p>○日常的に既習事項を振り返ることができるよう、校舎内や教室の掲示を工夫するとともに、授業の際には、常に既習の知識・技能が活用できるよう授業改善を行う。</p>

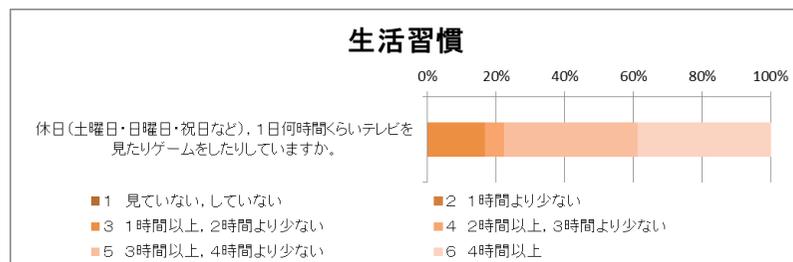
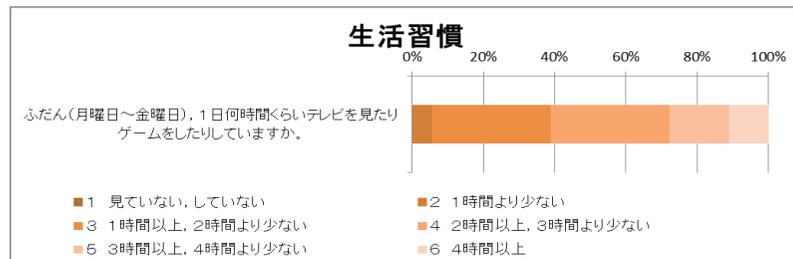
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
実施スケジュール	<b>PLAN</b> 教室掲示等の計画作成 指導計画の見直し	<b>DO</b> 掲示物計画の実施 指導方法の改善			<b>CHECK</b> 過去問題による 検証 (4年～6年)		<b>ACTION</b> 指導計画の見直し ならびにシラバスの 作成 (全学年)			過去問題の実施 (4年～6年)

検証	○時期：1月下旬      ○方法：福山市調査問題（4年～6年）      ○目標：課題のある領域の通過率60%以上      ○結果：
----	--

# 2014年度（平成26年度）授業改善シート〔児童質問紙調査〕

校番(73) 福山市立 山南 小学校

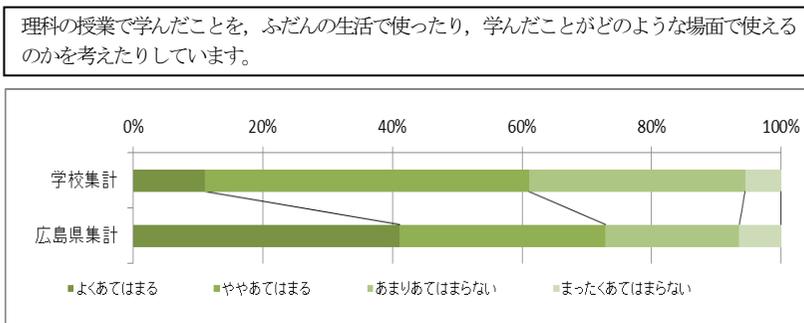
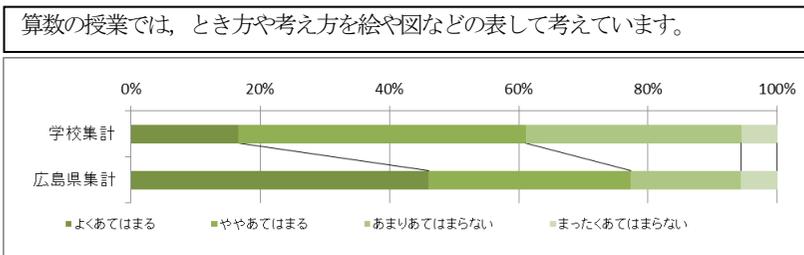
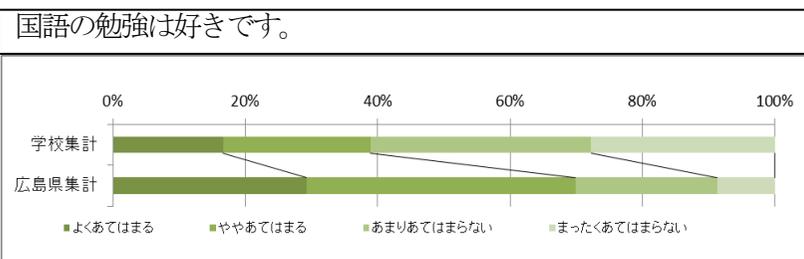
## (1) 生活・学習



児童の回答についての課題（現状値） ◎「基礎・基本」◇全国学力	課題改善のための日常的な取り組み
◎平日や、休日に、3時間以上テレビを見たり、ゲームをしたりする児童の割合が高い。(平日 27.8%, 休日 77.8%) また、自分で計画を立てて学習する児童の割合が低い。(50%)	◎家庭学習強化週間を定期的実施し、生活時間の見直しを行う。懇談会、学校・学級だより等で保護者への啓発を行う。また、家庭学習の手引きを活用し、自主学習の方法を指導し、自分で考えて学習できるようにする。
◇普段(月～金)1日当たり、4時間以上テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりする児童の割合が高い。(37.5%) また、家で学校の宿題をしていると答える児童の割合が県平均よりも約20%低い	◇家庭学習強化週間を定期的実施し、生活時間の見直しを行う。懇談会、学校・学級だより等で保護者への啓発を行う。

<b>検証</b>	○時期：1月下旬 ○目標：テレビ、ゲーム等の時間を県平均以下	○方法：児童アンケート(5, 6年) ○結果：
-----------	-----------------------------------	----------------------------

## (2) 教科



	児童の回答についての課題（現状値） ◎「基礎・基本」◇全国学力	課題改善のための日常的な取り組み
<b>国語</b>	◎◇国語の勉強は好きですと答える児童の割合が低い。(5年 38.9% 6年 50%)	◎◇児童が関心、意欲を持って学習に臨めるような導入の工夫を行う。つきたい力を明確にし、ゴールを意識した学習活動を仕組むよう、授業改善を行う。
<b>算数</b>	◎算数の授業では、とき方や考え方を絵や図などの表して考えていますと答える児童の割合が低い。(61.1%) ◇算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えていると答える児童の割合が低い。(50%)	◎算数科の授業の中で、つかむ、見通す、自力解決、集団思考、まとめの授業の流れを徹底するとともに、じっくり考えるための自力解決の時間を保障する授業改善を行う。 ◇児童が関心、意欲を持って学習に臨めるような導入の工夫を行う。学習内容が生活の中に活用できることを意識的に指導する。
<b>理科</b>	◎理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのかを考えたりしていますと答える児童の割合が低い。(61.1%)	◎実験や観察の際には、身の回りの現象と関連付けながらの指導をくり返し行う。また、単元の終わりには身の回りの現象と結びつけた演習実験等を行う。

<b>検証</b>	○時期：1月下旬 ○目標：県平均以上	○方法：児童アンケート(4～6年) ○結果：
-----------	-----------------------	---------------------------